



〈グレート・ピレニーズ〉

グレート・ピレニーズはピレニアン・マウンテン・ドッグともよばれる犬の一種で、超大型犬です。伝統的に牧草地で家畜（特に羊）を保護するのに使われてきました。非常に古い種類で、南フランスのピレネー山脈のバスク人によって数千年の間使われていました。最近では、フランス王立法廷の公式犬でもありました。

イエヌの犬種としては原始的な部類に属し、血統的に狼に近い犬種です。四肢にその名残りとして狼爪を持っています。ほとんどのイエヌは指が4本ですが、グレート・ピレニーズは前足が5本、後足が6本と通常より多いのが特徴で、一般家庭において飼育される場合、この狼爪は不要であるため、子犬の内に切除することもあるようです。しかし、狼爪はこの犬種としての証明でもあるため、残すことも多いようです。

飼い主に対して忠実でテリトリーに対する防御本能が強いですが、家庭犬に適しています。人と一緒に広い庭にいるのが好きで、散歩と人の視線をととも喜びます。また、この犬は子供を好むようです。この犬種は大きく強く育つために、服従トレーニングは必要です。2004年の映画『ネバーランド』で、J.M. バリーの飼っているランドシーア役として、グレート・ピレニーズが使われました。

【参考:ウィキペディア (Wikipedia): フリー百科事典】